

EU Indicators

発表日: 2019年4月18日(木)

欧州経済指標コメント: 4月ユーロ圏PMI速報

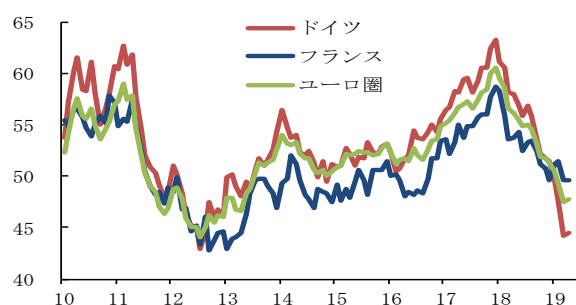
～中国景気反発の影響はまだ～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

主席エコノミスト 田中 理 (Tel: 03-5221-4527)

- ・ 連動性が高い中国の景気指標が全般に反発しており、4月のユーロ圏PMIは出遅れが目立つ欧州景気の底入れを確認するかに注目が集まった。だが、ユーロ圏の総合PMIは2ヶ月連続で改善モメンタムが鈍化。製造業PMIの悪化モメンタムが僅かに緩和したものの、反発の度合いは弱く、サービス業活動指数の改善モメンタムが4ヶ月振りに鈍化した。
- ・ 国別・業種別の内訳は、ドイツで製造業の悪化モメンタムが小幅緩和、フランスが悪化モメンタムが僅かに加速、ここから逆算してそれ以外のユーロ圏は悪化モメンタムが小幅緩和した模様。製造業PMIの構成5品目では、生産と受注の悪化モメンタムがやや緩和、雇用の改善モメンタムがやや加速した一方、在庫が低下し、入荷遅延が増加した(=指数の下押し)。サービス業活動指数は、ドイツとフランスがともに改善しており、それ以外のユーロ圏が大幅に悪化した模様。シェアの大きさから考えると、イタリアとスペイン辺りの弱さが原因か。
- ・ 景気対策の効果から中国の景気指標が反発しているが、その主役はオールド・エコノミーが中心とみられ、欧州からの輸出部門の業況改善には即座につながっていない模様。中国と欧州の製造業PMIは連動性が強いとは言え、単月での連動性がそこまで強い訳ではない。中国景気の回復期待は遅れて顕在化する可能性がある。他方、ドイツの大手自動車メーカーで新たな排ガス不正問題が発覚、米EU間で航空機を巡る関税賦課の動きもあり、景況下押しの追加材料となりかねない。欧州の製造業部門の底入れが確認されるには、もうしばらく時間が掛かりそうだ。

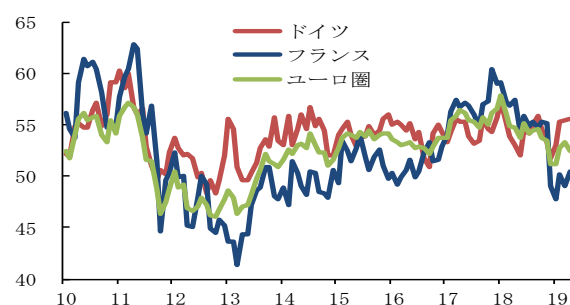
■ユーロ圏：製造業PMI



出所：IHS Markit

■購買担当者指数 (PMI、季節調整済み)

■ユーロ圏：サービス業PMI



出所：IHS Markit

		2018				2019									
		2Q	3Q	4Q	1Q	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
ユーロ圏	総合産出指数	54.7	54.3	52.3	51.5	54.3	54.5	54.1	53.1	52.7	51.1	51.0	51.9	51.6	51.3
	製造業購買担当者指数	55.6	54.3	51.7	49.1	55.1	54.6	53.2	52.0	51.8	51.4	50.5	49.3	47.5	47.8
	サービス業況指数	54.5	54.4	52.8	52.4	54.2	54.4	54.7	53.7	53.4	51.2	51.2	52.8	53.3	52.5
ドイツ	総合産出指数	54.2	55.2	52.4	52.1	55.0	55.6	55.0	53.4	52.3	51.6	52.1	52.8	51.4	52.1
	製造業購買担当者指数	57.0	55.5	51.8	47.1	56.9	55.9	53.7	52.2	51.8	51.5	49.7	47.6	44.1	44.5
	サービス業況指数	53.2	55.0	53.3	54.6	54.1	55.0	55.9	54.7	53.3	51.8	53.0	55.3	55.4	55.6
フランス	総合産出指数	55.4	54.4	52.3	49.1	54.4	54.9	54.0	54.1	54.2	48.7	48.2	50.4	48.9	50.0
	製造業購買担当者指数	53.6	53.1	50.6	50.8	53.3	53.5	52.5	51.2	50.8	49.7	51.2	51.5	49.7	49.6
	サービス業況指数	55.9	55.0	53.2	49.0	54.9	55.4	54.8	55.3	55.1	49.0	47.8	50.2	49.1	50.5

出所：IHS Markit

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

